八幡南 投打に圧倒

同地区本拠 両チーム大声援

毎年5月に行われている「ゼット旗争奪福岡大会」。中学生の部は福岡県内3支部の全チームをはじめ、九州各地や中四国、大阪からの遠征組を含めて計64チームが出場する。九州ブロック最大規模の大会で、決勝まで勝ち上がれば3日間で6試合のタフな戦いとなる。優勝するには投手層の厚さに加え、援護する攻撃力の高さも求められる。

ゼット旗福岡大会決勝

■第27回ゼット旗争奪福岡大会
中学生の部
▼決勝（18年5月5日）
八幡南（北九州）
500 111 5
041 000 0
5 13
上津役（北九州）
【八】名倉、吉武、井生―花田【上】宇宿、谷、青木、青柳―青柳、池永▽三塁打＝高橋、花田（八）▽二塁打＝日比野、青柳、小野本（上）

九州選抜Vの勢い

ボーイズリーグの中学生の部投手は1日7イニングの投球回数制限が設けられているが、2015年から連続する2日間で計10イニング以内などの規定が加わった。八幡南はこの15年から19年までの5年間で唯一、複数回優勝。特に18年の第27回は投打の両面でレベルの高さが光った。

2週前に九州選抜大会を制した勢いそのままに、1回戦から準々決勝までの2日間4試合で計52得点5失点と強さを見せつけた。エース右腕の井生祥太朗は2回戦から準々決勝まで温存。3日目の準決勝は6回無失点と好投し、村岡宙との完封リレーで勝ち上がった。

厳しい日程も選手層の厚さでカバー

吉武の好救援光る

決勝は同じ北九州支部の上津役を13―5で破った。初回に花田大雅の中前適時打などで5点を先制。3回に追いつかれたが、2番手の吉武幹太が4回⅔を1失点の好救援で流れを引き寄せ、打線も4回以降毎回得点で援護した。

相手は投球回数制限のため主力投手が投げられなかったのに対し、八幡南は最終回に井生を投入と余力を残しての優勝だった。徳野晴美監督は「九州チャンピオンになったことが自信になっている」と話した。

上津役一時同点も

敗れた上津役も打力の高さが光った。5点を先行されながらも、2回に4番・日比野隼人が左中間フェンス直撃の二塁打を放つと打線が点火。青柳琢真、輪竹光太郎、小野本翔太の適時打で4点を入れ、続く3回に間世田真の中前適時打で追いついた。

この両チームは同じ北九州市八幡西区に本拠を置き、それぞれの練習場まで直線距離で3キロ程度という「お隣さん」。決勝が行われた中間仰木彬記念球場へも近く、どちらも保護者と下級生による大声援が印象に残った。

当時1年生だった選手は最上級生になり、スタンドからグラウンドへと活躍の場を移した。今度は自分たちが後輩から応援してもらう番。先輩から後輩へという伝統を受け継いでいくためにも、練習はもちろん、大会で声を出して応援できる日が早く戻ってきてほしい。

（弓削　大輔）

第27回決勝で先輩たちを応援する八幡南ナイン。当時1年生の選手は今年最上級生になった

上津役の下級生や保護者もグラウンドに熱い声援を送った

第27回決勝で好救援した八幡南の吉武幹太

報知ボーイズリーグスペシャル
ボーイズリーグ欄掲載写真のご購入、本紙購読のお申し込みはWebサイト https://www.seibuhochi.com/boys/ または092・715・62889
▶QRコード

あの日 あの時！ あの1球
～ゼット旗争奪福岡大会ヒストリー～